

2012年度近隣交流七輪プロジェクト

梅澤ゼミ2年 山越龍太郎 谷屋夏樹 松田祐貴

1 目的と概要

近隣交流七輪プロジェクトは、その名の通り、私たち七輪PJが七輪を囲んで食事するという場を提供し、地域の方々の交流の場づくりを目的としたものである。多摩ニュータウンでは、集合住宅が多いため、単身世帯が多く、高齢化が進んでいる。そのため近年は、地域での交流の機会が減少している。梅澤ゼミは、2008年度7月より多摩市諏訪名店街七夕フェスタにて片桐先生が行っていたイベントを2010年度から引継ぎ「七輪横丁」を出店。本年度が3度目の参加となった。

七輪は、七輪自体が直径30cmと小さいため人と人との距離が自然と近くなり、食材に火が通るまで時間がかかることから、親近感と会話が生まれやすいという特徴がある。七輪はコミュニケーションを助ける極めて有効なツールである。さらに今年度は防災グッズとしての有効性を広めようと新たに「出張七輪」というプログラムと活動を始めることにした。

2 本年度の活動

(1) 諏訪名店街夏のイベント

今年度は空きスペースとなっていたカメラ屋の店舗をお借りすることができた。そのため、天候に左右されることなく、雨天でも店舗の軒を利用してイベントを実施することができた。

食材は、例年お世話になっているあしたや様から仕入れる一方、今年度は、当日のイベントでお客様が購入した食材の持ち込みも有とし、お越しいただいたお客様同士や、我々との交流する機会作することを目的とした。

新しい試みとして、使用する炭は「一本杉炭焼き倶楽部」から譲ってもらうことで多摩の炭を使用した。あしたやさんのこだわり有機野菜と鹿児島産パークシャーの肉に、多摩産の炭という物語を作ることができた。一本杉炭焼き倶楽部は、多摩のみどりの保全活動を行っているボランティア団体である。我々は5月に開催された多摩市グリーンライブセンターこども祭りに参加した際、一本杉の方々にお世話になったことから、炭に繋がったのである。

今回は、2年が中心となって活動したことから、あしたやさん、まちせん、諏訪名店街会長をはじめ多くの方々に御支援をいただいた。

恒例となっていることから、リピーターのお客様もおおり、後片付けには近隣の小学生も手伝ってくれた。打ち上げでは商店会側の本音の意見を頂けた。厳しい意見ばかりだったが、自分たちでは気付かなかった反省点に気付くことができた。

昨年度の発表祭では、ボランティアも大切だが、経営も考えるよう指摘を受けた。今年度は、売上¥11,000、利益が¥3,360と少しではあるが売り上げをあげることが出来た。

反省点としては以下の4つがあげられる。①準備段階、当日共に材料の不足、②調理や運営に手いっぱい、人と人とのつながりづくりの目的を達成できなかった、③商店街の賑やかさを期待されていたが、その期待に十分に添うことができなかった、④料理関連に対しての知識不足などがあげられる。

(2) 新規事業「出張七輪」 - 多摩市聖ヶ丘「ひじり館祭り」への参加

昨年度、本プロジェクトの備品として七輪を購入することができた事で、他の地域でも活動が可能となった。※これまでは諏訪名店街が所有する七輪を使用していた。

人々の交流に有効な七輪の特徴と防災時に役立つ七輪の重要性を広く伝えたいという思いから、これを「出張七輪」と題した。「出張七輪」は、ガスコンロやIH等では被災時に役に立たない場合があるが、七輪ならば役に立つという見解を広めたいと考え立案した計画である。目的は、以下の取り。

- ・七輪の特徴を活かし、人と人とのつながりを作ってもらうこと
- ・電気やガスを使用せずに、昔ながらの炭を用いて行う特徴を伝える
- ・機能性を活かしてどこにでも持ち運べるということ
- ・災害時に煮炊き、暖をとる、明かりの代用などに役立つということ

その第一回として参加を決めたのが10月27・28日開催の「ひじり館まつり」である。

このイベントを選んだ理由は、第一に多摩大学から非常に近いことである。資材の運搬が容易であるため、不慣れた初回の試験実施に向いていること、これを機会に我々のことを知ってもらうことが出来れば、今後とも連携できるのではないかと考えたからである。第二に、梅澤ゼミプロジェクト「多摩うどんぼんぼこプロジェクト」との連携である。多摩うどんぼんぼこは聖ヶ丘商店街にあり、このつながりから地域交流の輪を広げることができると考えたからである。

今回の参加は急に決まったもので、参加に至るにあたっては、多摩うどんぼんぼこを運営する時の协会会长、ひじり館の職員の方々、聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会会長といった皆さまのご厚意によるものであった。

今回の運営方法は、諏訪名店街の七輪とは異なり、机や、シートを敷いてお客様に焼いていただくのではなく、我々が実演販売する屋台と同じ形式を採用した。諏訪名店街のイベントほどのスペースを確保できないという理由からだ。屋台形式を取ることで、七輪の特徴である「交流」ができなくなるため、七輪の利点と普及を促すべく、七輪の良さをまとめたパンフレットを配るという方法を取った。

季節は「食の秋」ということで、椎茸、焼き芋、じゃがバター、焼栗など旬な食材を提供することにした。食材は、地元の野菜をぼんぼこさんから分けていただくことになった。しかし、当日は雨天になり、今回の七輪イベントの開催は中止となった。

活動成果としては、①「出張七輪」のプログラムを形作ることが出来た事。②梅澤ゼミで、ひじり館まつりの準備や餅つき等の手伝い、ぼんぼこの玉こんにゃく出店を手伝ったことから、聖ヶ丘の自治会、住民の方々に我々の活動を理解していただいたことだ。来年度の参加許可もいただいた。

3. まとめ・反省

プロジェクト実施の上で役割分担を明確にし、他プロジェクトからのヘルプとして協力してくれるゼミ生に対してのマニュアルをしっかりと作っていかねばならないほか、プロジェクトを行う地域の事前調査の実施、連絡漏れ防止や、メンバー全員の適切な状況把握のために小まめな情報交換が大切だと感じた。また、七輪の知識はもちろん、食材の知識等も近隣交流が活発に行う上で必要だと考えている。そして、チラシなどを作成し告知をする、イベント進行にとらわれずに、お客様とのコミュニケーションを積極的に行うことが重要だと感じた。

4. 今後の展望

今後は、諏訪名店街での七輪横丁に加え、新規事業「出張七輪」を主に展開していく予定だ。地域のイベントへの参加、小学校の防災教育として「七輪教室」を提案するなど、活動を広げていこうと考えている。今年度は、先輩からの引き継ぎ等が無かったために手探りの運営となり失敗もしたが、来年度は今年度の失敗を糧とし、より良い七輪PJにしていくつもりだ。

「出張七輪」を広めていく上で、人と人とのつながりを大切にするために口コミで行うことを前提として考えている。それに加えHPを作成し告知する事も視野に入れているが、ここで問題なのがHPを作成する技術を持ったプロジェクト員がいないということだ。解決策として、同ゼミ内の他のプロジェクト員に協力してもらうか、他のゼミに依頼をしようか検討している。

謝辞

本年度の近隣交流七輪プロジェクトを運営するにあたって、あらゆる面で我々を支えてくださった諏訪名店街会長、あしたやさん、まちづくり専門家会議、諏訪5丁目自治会の皆様、誠にありがとうございました。また、出張七輪では、「多摩うどんぼんぽこ」の皆さま、ひじり館関係者の皆様、一本杉炭焼き倶楽部、多摩グリーンライブセンター森木会の皆様に感謝申し上げます。